

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒721-0931
 住 所 広島県福山市鋼管町1
 氏 名 株式会社JFEサンソセンター
 代表取締役社長 上原 正弘 印
 (代理人) 取締役工場長 茂浦 悦男
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

| | | | |
|---------------------|--|-------------------|--------------------------------|
| 事業者の氏名 又は名称 | 株式会社JFEサンソセンター | | |
| 主たる事務所 又は事業所の所在地 | 川崎市川崎区扇島1番地 JFEスチール(株)東日本製鉄所構内 | | |
| 該当する事業者 の要 | <input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者) | | |
| 主たる事業 の業種 | 大分類 | E | 製造業 |
| | 中分類 | 16 | 化学工業 |
| 主たる事業 の内容 | 酸素ガス・窒素ガス・アルゴンガス・液化酸素・液化窒素・液化アルゴン製造 | | |
| 事業者の規模 | <input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量 | ***** k l | |
| | <input type="checkbox"/> 自動車の台数 | 台 | |
| | <input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量 | t-CO ₂ | |
| 連絡先 | 担当部署 | 担当部署名 | 技術課 |
| | | 所在地 | 川崎市川崎区扇島1番地 JFEスチール(株)東日本製鉄所構内 |
| | | 電話番号 | 044-266-6412 |
| | | FAX番号 | 044-299-1772 |
| | | メールアドレス | |
| ※受付欄 | | ※特記事項 | ※事業者番号 |

(第2面)

| | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 計画期間及び報告年度 | 平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度 平成27年度分) |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量 | 別途 指針様式第2号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況 | 別途 指針様式第2号のとおり |
| 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況 | 別途 指針様式第2号のとおり |
| その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項 | 別途 指針様式第2号のとおり |
| 備 考 | |

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

| | 基準年度 | 第1年度 | 第2年度 | 第3年度 | 目標排出量 |
|-----|--|--|--|--|-------------------------------|
| 排出量 | (実) 168,231 t-CO ₂ (調) 167,895 | (実) 191,570 t-CO ₂ (調) 191,186 | (実) 196,099 t-CO ₂ (調) 195,706 | (実) 185,602 t-CO ₂ (調) 185,230 | (実) 168,063 t-CO ₂ |
| 削減率 | | (実) -13.9 % (調) -13.9 % | (実) -16.6 % (調) -16.6 % | (実) -10.3 % (調) -10.3 % | (実) 0.1 % |

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

| 原単位の活動量 | 単位 | | | | |
|-----------|------|------|------|------|--------|
| | 基準年度 | 第1年度 | 第2年度 | 第3年度 | 目標年度の値 |
| 排出量原単位等の値 | | | | | |
| 削減率 | | % | % | % | % |

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

| | |
|------|---|
| 第1年度 | 顧客の需要が昨年度と比較して増加(対前年度比:106.7%)しており、それに伴って非効率設備(1976年製造プラント、主稼働設備 生産原単位比:17.5%高)の稼働時間が大幅に向上したため排出量増加となった。 |
| 第2年度 | 年々の顧客需要増(対前年度比:105.4%)により生産量を追従させるため、原単位の悪い設備(1976年製造プラント、主稼働設備との生産原単位比:17.5%高)を稼働させる必要があり、その運転時間が増加(対前年度比:143%)したため排出量増加に起因した。 |
| 第3年度 | 顧客の需要は、前年、前々年と比べ減少(対前年度比:96.3%)したため、設備運転時間が減少(対前年度比:70.5%)及び主稼働設備に対する原単位低減対策(原料空気圧縮機クーラーアルミ化)により、温室効果ガス排出量減少となった。しかし、主稼働設備(原単位良の設備)では対応しきれず、原単位が悪い設備(主稼働設備との生産原単位比:17.5%高)を稼働せざるを得なかったため、目標排出量まで減少させることはできなかった。 |

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

| |
|--|
| |
|--|

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

| | | |
|---------------------------|------|--|
| 事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等) | 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> ○高効率照明設備の導入推進 ○定期的な点検によるポンプ、コンプレッサーのエネルギー効率の改善 ○新規技術の導入による設備動力の削減 ○空気調和一括方式から分散方式への更新と管理 |
| | 第1年度 | <ul style="list-style-type: none"> ○高効率照明設備の導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・事務所の照明更新にLED照明47台を導入した。 ○定期的な点検によるポンプ、コンプレッサーのエネルギー効率の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・遠心ターボコンプレッサー2台、遠心ポンプ3台を定期点検・清掃し運転効率の向上を図った。 ○新規技術の導入による設備動力の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・冷却塔送水ポンプに省エネコーティングを施しポンプ摩擦抵抗を減少させ、動力削減に寄与。 ・空気圧縮機の空気冷却用クーラーの更新(材質変更)を行い、圧縮機動力の削減を達成。 |
| | 第2年度 | <ul style="list-style-type: none"> ○高効率照明設備の導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・機械棟の照明30台をLED照明に更新した。 ○定期的な点検によるポンプ、コンプレッサーのエネルギー効率の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・遠心式圧縮機1台、往復式圧縮機3台および送水ポンプ3台を計画的に定期点検することで、運転効率の向上を図った。 ○新規技術の導入による設備動力の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・冷却塔送水ポンプ(3台)に省エネコーティングを施工し動力削減を行った。 ・昨年度同様に空気圧縮機の空気冷却用クーラー材質変更を行い、圧縮機動力の削減を実施。 |
| | 第3年度 | <ul style="list-style-type: none"> ○高効率照明設備の導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・機械棟及び電気室の照明158台をLED照明に更新した。 ○定期的な点検によるポンプ、コンプレッサーのエネルギー効率の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・遠心式圧縮機1台、往復式圧縮機2台、送水ポンプ5台を定期的に定期点検することで、運転効率の向上を図った。 ○新規技術の導入による設備動力の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・冷却塔送水ポンプ(5台)に省エネコーティングを施工し、動力削減を実施。 |
| 自動車等 (第3号該当者等) | 計 画 | |
| | 第1年度 | |
| | 第2年度 | |
| | 第3年度 | |

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

| | |
|------|-------|
| 計 画 | 該当なし。 |
| 第1年度 | 該当なし。 |
| 第2年度 | 該当なし。 |
| 第3年度 | 該当なし。 |

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

| | |
|------|---|
| 計 画 | <ol style="list-style-type: none">1. 廃棄物全般の減量化及び分別化の推進2. 環境保全に関する教育の実施3. 社用車をハイブリット車へ導入実施 |
| 第1年度 | <ul style="list-style-type: none">・ 廃棄物処理に関する教育を実施(2013年6月)し、廃棄物の分別化について周知した。・ 社用車1台をハイブリッド車へ買い替えを行った。 |
| 第2年度 | <ul style="list-style-type: none">・ 産業廃棄物に関する教育(PCB廃棄物の管理など)を実施(2014年6月)し、廃棄物の処理管理及び分別について従業員に周知徹底した。 |
| 第3年度 | <ul style="list-style-type: none">・ 産業廃棄物(環境)に関する教育(産業廃棄物の管理など)を実施(2015年6月)し、産業廃棄物の業務管理について従業員に周知徹底した。 |

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

| | | |
|-----|---------|-------------------|
| (実) | 217,949 | t-CO ₂ |
| (調) | 216,462 | |

イ 第3号該当者等

| | | |
|-----|--|-------------------|
| (実) | | t-CO ₂ |
| (調) | | |

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|--------|-----------------------------|-------------------|-----------------|---------------------------|
| 京浜工場 | 川崎市川崎区原島1番地JFEスチール株東日本製鉄所構内 | 1623 | 圧縮ガス・液化ガス製造業 | 217,949 t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|--------|---------|-------------------|-----------------|-------------------|
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

| エネルギー使用量の規模 | 事業所数 |
|--------------|------|
| 400～500kl 未満 | |
| 300～400kl 未満 | |
| 200～300kl 未満 | |
| 100～200kl 未満 | |
| 100kl 未満 | |

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|--------|---------|-------------------|-----------------|-------------------|
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

| | |
|------|--|
| 事業所数 | |
|------|--|